

大野庄用水の現状および周辺景観に関する調査研究 ―世界遺産登録を目指して―

金沢大学工学部 ○ 保坂桃子 金沢大学大学院 正会員 安達 實
 金沢大学大学院 フェロー会員 北浦 勝 金沢大学大学院 正会員 池本敏和

1. 背景

金沢市は今、保持し続けてきた多くの文化遺産群を、「城下町金沢の文化遺産群と文化的景観」と位置づけ、整備を行っている。さらに、その遺産群が世界遺産暫定リスト掲載の候補となるように、文化庁に提案している。現在、この提案は継続審査案件となっているので、今後も文化財に指定されていない構成資産の指定の促進や、保存管理計画の策定が必要である¹⁾。

金沢市には辰巳用水をはじめとして、鞍月用水や大野庄用水など、江戸時代から残されている用水がたくさんあり、昔から生活の水として様々に利用されてきた。金沢の用水は数が多く、全部で55、総延長は約150kmになる。しかし、市街地の発展に伴い、用水周辺の動植物の減少、不法占有、暗渠化などの様々な問題が発生している。用水を大切に守り育て、後代に継承してゆくことがこれからの用水整備に求められる。

2. 目的

「城下町金沢の文化遺産群と文化的景観」は32の資産に分けられており、それらには兼六園や金沢城石川門、東山ひがし地区などが含まれ、文化財や資産の種類も様々である。よって金沢の文化遺産群が世界遺産に登録されるには、個々の資産について全体の調和や歴史を考えた整備・保全を行う必要がある。そこで本研究では、「城下町金沢の文化遺産群と文化的景観」の中で「辰巳用水及び歴史的用水」に位置づけられる大野庄用水に焦点を絞り、大野庄用水を含む景観が世界遺産に登録されるための基礎的資料を提供することを目的とする。具体的には、大野庄用水の現在の護岸の種類や分布、幅員や用水に架けられている橋の占有率、武家屋敷との関係、周辺の景観などについて調査し、大野庄用水の現状をまとめる。そして、今後の整備方針や周辺景観の整備方法についても考察し提案する。

3. 大野庄用水について

大野庄用水は、犀川水系から取水する用水のひとつである。完成年は天正年間(1573~92)とされており、金沢で最も古く、二代藩主・利長の家臣富永佐太郎によって完成したと伝えられている。灌漑、物資運搬、防火、防御、融雪などの多目的用水であり、金沢城築城に大きな役割を果たした。また、旧宮腰(金石港)から大量の木材を運ぶために造られたことから、御荷川(または鬼川)とも呼ばれている¹⁾。現在は、犀川桜橋の上流右岸地点で取水している。昔は犀川大橋下流右岸で取水していたが、砂防整備が進み、河床が下がったため、そこからの取水が困難になったからである。長町武家屋敷周辺では土堀沿いを流れ、その様子は金沢を代表する景観となっている(図-1)。



図-1 大野庄用水と武家屋敷

4. 調査内容と調査結果

大野庄用水の現状を知るために、現在の護岸状況について調査を行った。その結果を図-2に示す。本研究の対象区間は、旧取水口の犀川大橋下流右岸から鞍月用水との合流部である中橋町付近の約2kmである。さらに、対象区間を上流部、武家屋敷周辺(伝統環境保存区域)、中流部、下流部の4つの区間に分け、整備方針を検討する。護岸は、石積み護岸、コンクリート護岸、鋼矢板、暗渠部分の4つに分類できる。

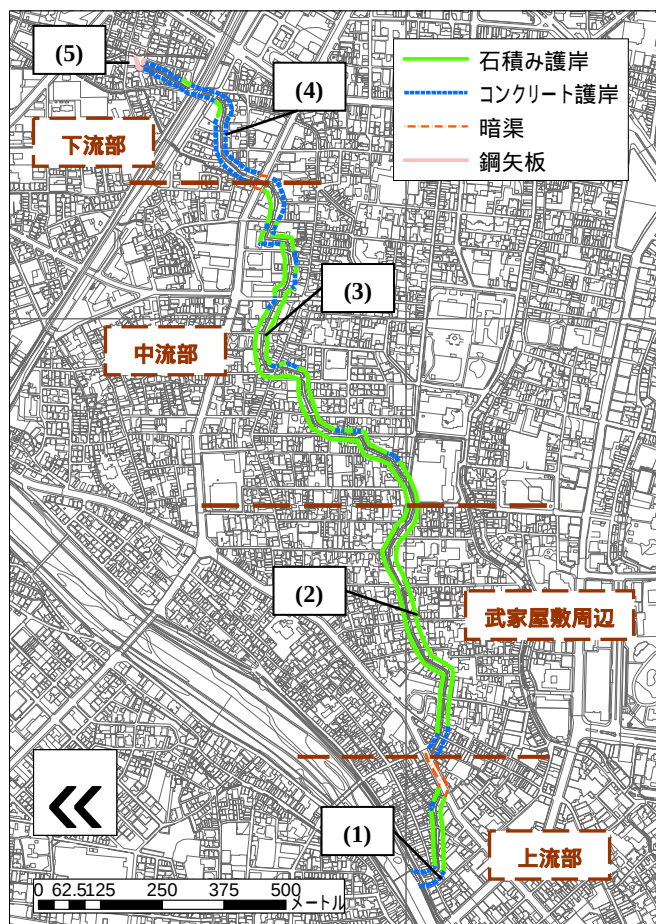


図 - 2 護岸状況

上流部では、主に飲食店や住宅地の間を流れる。旧取水口付近ではコルゲートパイプ（写真(1)）とコンクリート護岸になっており、他は石積み護岸で整備されている。武家屋敷周辺は、石積みとともに土塀が連なる。ここでは家によって石の種類や積み方、石積みの高さなどが異なり、石積みと土塀を大切に保全してきた金沢の歴史が伺える（写真(2)）。中流部では主に住宅地の間を流れる。古い石積みが残る箇所もあれば（写真(3)）、石積みをコンクリートで補強している箇所もある。しかし、コンクリートが水の流れによって侵食され、破損している箇所が見られる。下流部では、アパートやビルなどが増え、コンクリート護岸が増える（写真(4)）。また、最下流の鞍月用水との合流部では、大野庄用水で唯一鋼矢板の護岸が見られる（写真(5)）。



写真(1) コルゲートパイプ



写真(2) 武家屋敷周辺の石積み護岸



写真(3) 居住空間を流れる場合の護岸



写真(4) コンクリート護岸



写真(5) 鋼矢板

5. まとめ

護岸の整備方針案を表 - 1 に示す。また、方針を実行に移す予算面での課題の解決には、ボランティアやNPO、用水とともに暮らす金沢市民の協力が不可欠である。このように、用水に身近な人々が整備活動を行うことにより、人々が用水を保護する意識が強くなり、用水がさらに親しみやすい存在になると考える。それは、用水を整備することと同時に、用水と人が歴史と文化を育み続けることにもつながるであろう。

最後に、調査に協力してくださった方々に感謝の意を表します。

表 - 1 護岸の整備方針

区間	周辺環境	方針(重点的)	共通項目
上流部	飲食店, 住宅地	導水機能の維持(破損箇所の修繕), 環境に配慮した整備(石積み護岸に整備), 不法占有の撤去。	環境整備(定期的な清掃, 流量の確保, 植生の適切な伐採)
武家屋敷周辺	武家屋敷(伝統環境保存区域)	石積み護岸と土塀の維持管理(補修, 冬のこもかけ), 景観の保全。	
中流部	住宅地	導水機能の維持(破損箇所の修繕), 環境に配慮した整備(石積み護岸の復元, 蛸の住める環境作り)。	
下流部	アパート, ビル, 工場	導水機能の維持(破損箇所の修繕), 不法占有の撤去。	

参考文献

1) いいねっと金沢: <http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/>